

研究報告の報告状況  
(期間:平成18年4月1日～8月31日)

資料 No.3-6

	一般名	概要
1	ポリコナゾール	血漿中ポリコナゾール濃度が高い患者で視覚障害の発生頻度の上昇が認められた。一方、血漿中ポリコナゾール濃度で肝機能検査値異常の出現を予測できる確立は低く、TDMは有用でないことが示唆された。
2	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	第V因子laiden変異保因者が経口避妊薬を使用すると、航空飛行後に血栓凝固系の活性化が起きる可能性がある。
3	ジクロフェナクナトリウム	ジクロフェナク使用により、急性心筋梗塞のリスクが上昇することが示唆された。
4	ホスフェストロール	新生児のジエチルスチルベストロール暴露は、雄ハムスターの生殖器官でアンドロゲン感受性を変化させることが示唆された。
5	スルピリン	デング熱成人患者群では罹患後4日以内にスルピリンを投与すると、血小板減少の発生率の増加が生じ、結果として出血性デング熱の危険性を高めることが報告された。
6	ジクロフェナクナトリウム	ラットを用いたin vivo実験の結果、パロキセチンはインドメタシン誘起幽門洞潰瘍の発生を増悪させることが示唆された。
7	ジクロフェナクナトリウム	ラットを用いたin vivo実験の結果、パロキセチンはインドメタシン誘起幽門洞潰瘍の発生を増悪させることが示唆された。
8	セフォタキシムナトリウム	新生児の敗血症治療において、アンピシリンとセフォタキシム併用群の死亡率は、アンピシリンとゲンタマイシン併用群より有意に高かった。
9	アスピリン	自発性脳内出血(ICH)発現前アスピリン使用は、血腫の早期増大により、ICH患者の3ヶ月間の死亡率を増加させる可能性が示唆された。
10	プロトロンビン時間キット、フィブリノーゲンキット	ダブトマイシン使用患者検体のプロトロンビン時間が、本キットを用いて測定した際に延長する可能性がある。
11	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	第V因子laiden変異保因者が経口避妊薬を使用すると、航空飛行後に血栓凝固系の活性化が起きる可能性がある。
12	臭化パンクロニウム	新生児期に呼吸不全の治療を受けた小児において、神経筋遮断薬(ベクロニウム、パンクロニウム)使用により感音性難聴が誘発されることが示唆された。
13	ホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌においてfluorouracil/folinic acid(LV)/oxaliplatin群とfluorouracil/LV群を比較したランダムマイズphase III studyにおいて死亡例が1例ずつ認められた(溶血/血小板減少症/腎機能不全/呼吸器機能不全、好中球減少性敗血症)。
14	テガフル	テガフルが劇症化のリスクを増加させる薬剤、劇症肝炎との関連が強かった薬剤として報告された。
15	デキサメタゾン	デキサメタゾンを含む化学療法を施行している多発性骨髄腫患者において、累積デキサメタゾン投与量により骨無腐性壊死発現リスクが上昇することが示唆された。
16	アセトアミノフェン	アセトアミノフェン使用者で、急性白血球病発症リスクの上昇が示唆された。
17	インドメタシン	うつ血性心不全の既往を持つ高齢者での再発による再入院のリスクは、インドメタシンの投与で上昇することが示唆された。
18	プラバスタチンナトリウム	日本人患者のHMG-CoA還元酵素阻害剤の使用によって、リンパ球性悪性腫瘍のリスクを高めることが示唆された。
19	ロラゼパム	人工呼吸管理下でのロラゼパム投与は、譫妄移行に対して重要なリスクファクターであることが示唆された。

	一般名	概要
20	ホリナートカルシウム	胃及胃食道接合部腺癌の切除後にfluorouracil/adriamycin/leucovorin併用療法及びfluorouracil/epirubicin/methotrexate/leucovorin(FEMTX)併用療法が実施され、それぞれの併用療法で2例ずつの死亡例が報告された。
21	プラバスタチンナトリウム	日本人患者のHMG-CoA還元酵素阻害剤の使用によって、リンパ球性悪性腫瘍のリスクを高めることが示唆された。
22	リスペリドン	ウサギを用いた実験の結果、抗精神病薬によって心筋病変が誘発される可能性が示唆された。
23	テガフル・ウラシル	進行・再発大腸癌に対し、テガフル・ウラシルと塩酸イリノテカンの併用療法を行ったところ、血液毒性としてgrade4の好中球減少が1例認められた。
24	塩酸バンコマイシン	O病院において2004年12月から2005年1月にかけて3名の入院患者にてバンコマイシン耐性腸球菌(VRE)が検出され、VRE陽性者は2005年4月28日までに70例となった。
25	エストラジオール	閉経期ホルモン療法は、乳管癌と小葉癌のリスク上昇に関与し、エストロゲン、プロゲステロン併用療法は腺管癌と関連性のあることが示唆された。
26	塩酸エピルビシン	パクリタキセル投与後にエピルビシンを投与すると、エピルビシンの血中濃度が上昇し、重篤な血液毒性の発現頻度が高くなる可能性が示唆された。
27	トルブタミド	旧世代のスルホニル尿素薬の低用量服用者に対する高用量服用者における死亡率はメトホルミンの低用量服用者に対する高用量服用者における死亡率に比べて高いことが示唆された。
28	レノグラスチム(遺伝子組換え)	G-CSF投与健康人のリンパ球で、がん患者のリンパ球と同じ対立遺伝子修飾や異数体が認められた。
29	塩酸ダウノルビシン	小児がん患者においてアントラサイクリン系薬剤が上腕動脈反応性を低下させることが示され、アントラサイクリン系薬剤が内皮機能を阻害することが示唆された。
30	インドメタシン	ラットを用いたin vivo実験の結果、パロキセチンはインドメタシン誘起幽門洞潰瘍の発生を増悪させることが確認された。
31	ジクロフェナクナトリウム	ジクロフェナク使用により、急性心筋梗塞のリスクが上昇することが示唆された。
32	トルブタミド	旧世代のスルホニル尿素薬の低用量服用者に対する高用量服用者における死亡率はメトホルミンの低用量服用者に対する高用量服用者における死亡率に比べて高いことが示唆された。
33	グリベンクラミド	旧世代のスルホニル尿素薬の低用量服用者に対する高用量服用者における死亡率はメトホルミンの低用量服用者に対する高用量服用者における死亡率に比べて高いことが示唆された。
34	乾燥濃縮人アンチトロンビン3	高用量のアンチトロンビンⅢ(3万IU/4日)とヘパリン併用時は出血の危険性を高めることが示唆された。
35	乾燥濃縮人アンチトロンビン3	ヘパリンを併用していない敗血症患者への高アンチトロンビン(AT)(3万IU/4日)の投与はDICの有無に係らず出血性合併症リスクを増加させた。
36	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	第V因子Iaidsen変異保因者が経口避妊薬を使用すると、航空飛行後に血栓凝固系の活性化が起きる可能性がある。
37	テリスロマイシン	テリスロマイシンはCYP3A4阻害によりrepaglinideの血漿中濃度を上昇させ、血糖降下作用を増強させる可能性がある。
38	ホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌においてfluorouracil/folinic acid(LV)/oxaliplatin群とfluorouracil/LV群を比較したランダムイズドphase III studyにおいて特異的な反応を呈した死亡例が1例ずつ認められた。
39	アミノフィリン	慢性閉塞性肺疾患、喘息患者にアミノフィリンを投与すると、心拍数増加、期外収縮が起こることが示唆された。
40	ホスフェストロール	マウスを用いたin vivo実験の結果、胎児期の子宮内砒素暴露による泌尿生殖器癌は、出生後のDiethylstilbestrol投与で憎悪した。
41	イオヘキソール	腎機能の悪化した患者(血清クレアチニン $\geq$ 1.2mg/dl)において、高尿酸血症は造影剤腎症のリスクファクターであることが示唆された。

	一般名	概要
42	ニコチン酸トコフェロール	ビタミンC,Eの併用で、子癇前症のリスクは低減しなかった。
43	抱水クロラール	6ヶ月未満の幼児への心エコー検査時の抱水クロラール投与は、有害事象(無呼吸、気道閉塞、低酸素症、高炭酸血症、低血圧、嘔吐、沈静延長)を予測するリスク因子となる。
44	プラバスタチンナトリウム	日本人患者のHMG-CoA還元酵素阻害剤の使用によって、リンパ球性悪性腫瘍のリスクを高めることが示唆された。
45	グリベンクラミド	旧世代のスルホニル尿素薬の低用量服用者に対する高用量服用者における死亡率はメトホルミンの低用量服用者に対する高用量服用者における死亡率に比べて高いことが示唆された。
46	イブプロフェン	急性心筋梗塞の既往がある患者にイブプロフェンを高用量投与すると、死亡リスクが高まることが示唆された。
47	エタノール	採血の際、皮膚消毒に用いたエタノールの混入で血中エタノール測定結果に影響を与え、飲酒運転として冤罪となる可能性がある。
48	塩酸パロキセチン水和物	大うつ病性患者において、パロキセチン投与群とプラセボ投与群間で、統計的には有効性の優位な差は見られなかった。
49	インドメタシン	陣痛抑制に対するインドメタシンの使用は、早産児のPVE(脳質周囲エコー輝度)のリスクを上昇させることが示唆された。
50	ビタミンC,E含有一般用医薬品	ビタミンC,Eの併用で、子癇前症のリスクは低減しなかった。
51	エストラジオール	閉経期ホルモン療法は、乳管癌と小葉癌のリスク上昇に関与し、エストロゲン、プロゲステロン併用療法は腺管癌と関連性のあることが示唆された。
52	ジゴキシン	心不全患者において、ジゴキシンの使用は死亡率と一次事象(死亡、救急蘇生を要した心停止、心不全による入院、強心剤や血管拡張剤の静脈内投与を4時間以上要した場合)発症率のリスクを高めることが示唆された。
53	ホスフェストロール	ジエチルスチルベストロールに子宮内暴露された男児は尿道下裂のリスクが高い。
54	ホスフェストロール	マウスを用いたin vivo実験の結果、ジエチルスチルベストロールの周産期暴露により胸腺細胞のアポトーシスが起り、胸腺萎縮を起こすことが示唆された。
55	塩酸メフロキシン	タイでの抗マalaria治療効果のモニターの結果、2地域でメフロキシン単独使用では効果が不十分であったことが報告された。
56	塩酸リトドリン	早産治療におけるリトドリンと硫酸マグネシウムの併用は、心筋虚血の発現リスクを高める。
57	ホリナートカルシウム	大細胞型B細胞非ホジキンリンパ腫の化学療法において感染または敗血症性ショックによる死亡が認められた。
58	ペグインターフェロン アルファ-2a(遺伝子組換え)	スイスにおいて行われた本剤の定期安全性最新報告(2005.2.1-2006.1.31)では前回の報告に比べ、死亡事象報告の全体数の増加が認められた。
59	ホリナートカルシウム	手術不能頭頸部癌に対して、シスプラチン/fluorouracil/葉酸併用療法に続き放射線化学療法を実施する治療群とfluorouracil/葉酸/マイトマイシンC併用療法と同時に高分割放射線療法を実施する治療群を比較した非ランダムマイズ試験において、前群で3例の死亡が確認された。
60	ホリナートカルシウム	進行胃癌に対してfluorouracil/ホリナートカルシウム/ドセタキセル併用療法を実施した試験で敗血症性ショックによる死亡例が1例確認された。
61	フルバスタチンナトリウム	日本人患者のHMG-CoA還元酵素阻害剤の使用によって、リンパ球性悪性腫瘍のリスクを高めることが示唆された。
62	ベルテポルフィン	栄養血管あるいは異常血管網の起始部血管の径が太いものは、有意にPDT(光線力学的療法)後に出血しやすいことが示唆された。
63	デキサメタゾン	未治療の浸潤性暗黒細胞リンパ腫患者に対して、hyper-CVAD(シクロホスファミド、ドキシルビシン、ビンクリスチン、デキサメタゾン)+リツキシマブの併用と高用量メトトレキサート+シタラピン+リツキシマブの併用の交互施行の結果、grade4の好中球減少、血小板減少やgrade3-4の口内炎、出血、腎不全、中枢神経系疾患等が発現し、うち3例が好中球減少性肺血症により死亡した。

	一般名	概要
64	ジクロフェナクナトリウム	ジクロフェナク使用により、急性心筋梗塞のリスクが上昇することが示唆された。
65	シンバスタチン	日本人患者のHMG-CoA還元酵素阻害剤の使用によって、リンパ球性悪性腫瘍のリスクを高めることが示唆された。
66	塩酸ミトキサントロン	濾胞性リンパ腫10例とマントル細胞リンパ腫1例に対し(R-)FND療法(フルダラビン+ミトキサントロン+デキサメタゾン)を行ったところ、因果関係不明な乳癌1例、子宮体癌1例が認められた。
67	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊薬とボセンタンの併用で、ノルエチステロンとエチニルエストラジオールのAUCが減少する。
68	エキセメスタン	国外で行われたアロマターゼインヒビター(AI)の大規模臨床試験情報を収集し、解析を行ったところ、閉経後初期乳癌術後補助療法においてタモキシフェン投与に比べAIの投与は関節痛、破碎骨折、骨痛及び骨粗鬆症に有意な、あるいはそれに近い増加が見られた。
69	塩酸ミノサイクリン	小児においてミノサイクリン投与により慢性自己免疫疾患が発現する可能性がある。
70	ジゴキシン	心不全患者において、ジゴキシンの使用は死亡率と一次事象(死亡、救急蘇生を要した心停止、心不全による入院、強心剤や血管拡張剤の静脈内投与を4時間以上要した場合)発症率のリスクを高めることが示唆された。
71	イブプロフェン	関節炎治療中の患者がイブプロフェンとアスピリンを併用すると、心血管リスクが上昇することが示唆された。
72	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	腎移植後の免疫抑制剤使用が悪性腫瘍発生の危険因子となることが示唆された。
73	イコサペント酸エチル	狭心症男性患者3114症例において、魚油(特にカプセル剤)の摂取が心臓死、突然心臓死のリスクを高めることが示唆された。
74	肺炎球菌ワクチン	肺炎球菌多糖類ワクチンは侵襲性肺炎球菌疾患に対して予防効果を示したが、肺炎球菌性肺炎にはほとんど又は全く効果を示さなかった。
75	リン酸オセルタミビル	リン酸オセルタミビルによる低体温は動物実験でも呼吸抑制による死亡の前駆ないし随伴症状として再現されており、リン酸オセルタミビルの強い中枢抑制作用を示すものと考えられた。
76	リン酸オセルタミビル	FDAのリン酸オセルタミビル使用後の小児死亡例に対する見解は大きな問題点が存在するため再検討されるべきであり、それを根拠にした小児科学学会の見解も見直されるべきであるとの報告がなされた。
77	トレチノイン	ICR妊娠マウスにall-trans retinoic acidを経口投与したところ、100%の発症率で胎仔に口蓋裂が認められた。
78	リン酸オセルタミビル	小児インフルエンザ患者ではオセルタミビルの治療効果はA型よりもB型のほうが穏当であることが示唆された。
79	リン酸オセルタミビル	オセルタミビルに対するA型及びB型インフルエンザウイルスの耐性株が確認されたが、耐性ウイルスが検出された症例でも通常のインフルエンザと同様に経過する場合が多いことが推測された。
80	リン酸オセルタミビル	オセルタミビルに対するB型インフルエンザウイルスの耐性ウイルスが検出され、ヒトからヒトへの伝播が確認された。
81	塩酸ミノサイクリン	小児においてミノサイクリン投与により慢性自己免疫疾患が発現する可能性が示された。
82	シメチジン	超低出生体重の乳児において、H2ブロッカーの投与は壊死性腸炎の発生率を高めることが示唆された。
83	塩酸イリノテカン	グルクロン酸転移酵素(UGT1A1)プロモーターの遺伝子多型は、イリノテカン+ラルチレキセド併用療法による下痢、嘔吐、衰弱の予測因子となることが示唆された。
84	次亜塩素酸ナトリウム	シリアンハムスター胚細胞に次亜塩素酸ナトリウムを投与すると染色体異常が起こる。



	一般名	概要
85	デキサメタゾン	びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫患者に第2選択治療としてDEP(シスプラチン、エトポシド、デキダメタゾン)による治療を行うと、grade3-4の好中球減少、血小板減少症、貧血、粘膜炎、悪心・嘔吐、腎臓毒性が発現し、うち1例が肺血症、もう1例が腎臓毒性により死亡した。
86	ジクロフェナクナトリウム	選択的COX-II阻害剤や他のNSAIDによる治療は、急性心筋梗塞後の患者の死亡率を高めることが示唆された。
87	ジクロフェナクナトリウム	股関節、膝関節の変形性関節症患者において、180日を越えるジクロフェナク使用者は30日以上の短期使用者と比較して、X線所見での症状が進行しており、ジクロフェナクが症状進行を加速する可能性が示唆された。
88	ジクロフェナクナトリウム	ジクロフェナク使用により、急性心筋梗塞のリスクが上昇することが示唆された。
89	シスプラチン	マウスにシスプラチンを投与した実験において、高齢マウスで癌誘発率が高いことが示された。
90	塩酸ピルジカイニド	ピルジカイニドとセチジリンを併用すると各々の腎クリアランスは減少し、両剤の血中濃度が上昇することで不整脈が起こる可能性がある。
91	タクロリムス水和物	ドイツで肝移植患者に聴力障害についてアンケートを実施したところ、難聴発現がタクロリムス投与で多いことが報告された。
92	インドメタシン	セレコキシブに比べ、インドメタシンはうつ血性心不全の再発リスクを増加させることが示唆された。
93	エストロゲン〔結合型〕	子宮を摘出した女性に対するエストロゲン単独のホルモン補充療法は、静脈血栓症の発現リスクを高める。
94	ブドウ糖	オランダのメディカルセンターの血糖コントロールを行っていない長期入院重篤患者において、グルコース1日摂取量と死亡率との間に相関関係が認められた。
95	塩酸イリノテカン	グルクロン酸転移酵素(UGT1A1)プロモーターの遺伝子多型は、イリノテカン+ラルチレキセド併用療法による下痢、嘔吐、衰弱の予測因子となることが示唆された。
96	インドメタシンナトリウム	動脈管閉鎖早産児に対するインドメタシン治療において、3回目のインドメタシン治療を施行した群で脳室周囲白質軟化症リスク上昇の可能性が示唆された。
97	エストラジオール	閉経後の女性に結合型エストロゲンを単独投与すると、下肢動脈疾患と腹部大動脈瘤それぞれのリスクは上昇しないが、両疾患をあわせたリスクは高まることが示唆された。
98	バルプロ酸ナトリウム	子宮内でバルプロ酸に暴露された幼児は、言語知能指数が低く、より特徴的な異形顔貌を有することが示唆された。
99	エストロゲン〔結合型〕	子宮摘出閉経女性への単独ホルモン補充療法では、乳癌発癌リスクは上昇しないものの、マンモグラフィー異常所見の発現リスクが高まることが示唆された。
100	エストロゲン〔結合型〕	米国黒人女性において、エストロゲン単独またはプロゲステロン併用ホルモン補充療法は乳癌リスクを上昇させ、痩せた女性(BMI<25)は、よりリスクが上昇することが示唆された。
101	テガフル・ウラシル	結腸癌の術後補助化学療法においてフルオロウラシル又はテガフル・ウラシルとホリナートカルシウムの併用療法により、死亡例が認められ、6-7%においてsecond primary cancerが認められた。
102	ジスルフィラム	スウェーデンにおいて1966~2004年までにジスルフィラムと因果関係が否定できない肝障害が82例報告された。そのうち、8例(1.6%)が死亡又は肝移植に至った。
103	メトトレキサート	メチレンテトラヒドロ葉酸還元酵素(MTHFR)の多型がメトトレキサートの副作用や効果発現と関連することが示唆された。
104	ジゴキシシン	心不全患者において、ジゴキシシンの使用は死亡率と一次事象(死亡、救急蘇生を要した心停止、心不全による入院、強心剤や血管拡張剤の静脈内投与を4時間以上要した場合)発症率のリスクを高めることが示唆された。
105	スルファメトキサゾール・トリメプリム	NAT2遺伝子多型がST合剤服用時の副作用発現率と関連が示唆された。
106	ザルシタピン	高用量のジドブシンとザルシタピンの併用で相乗的なラット胎児の発達異常が認められた。

	一般名	概要
107	ニコチン含有一般用医薬品	非小細胞肺癌細胞の抗癌剤処理によるアポトーシスは、ニコチンによって抑制されることが示唆された。
108	ジクロフェナクナトリウム	選択的COX-II阻害剤や他のNSAIDによる治療は、急性心筋梗塞後の患者の死亡率を高めることが示唆された。
109	アセトアミノフェン	アセトアミノフェンを高用量使用すると、上部胃腸管障害のリスクが上昇することが示唆された。
110	ジクロフェナクナトリウム	ジクロフェナク使用により、心筋梗塞のリスクが上昇することが示唆された。
111	硫酸マグネシウム・ブドウ糖	硫酸マグネシウムによる子宮収縮抑制を行った妊婦において、低濃度の硫酸マグネシウム投与、硫酸マグネシウムの早い投与速度が肺水腫発生のリスクファクターとなる可能性が示唆された。
112	ナプロキセン	レトロスペクティブなコホート研究を行ったところ、NSAIDの服用が肺癌発症のリスクを増大させることが示唆された。
113	アトルバスタチンカルシウム	脳卒中または一過性虚血発作を発症した患者にアトルバスタチンを80mg投与した群では、脳卒中発症リスクは減少したが、非致死性脳出血の発症率が高くなった。
114	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	高齢の急性骨髄性白血病患者に対するシタラビンとゲムツズマブオゾガマイシンの併用臨床試験において類洞閉塞性症候群と一致する腹水、体液貯留、脳症を伴う重度で致死的な高ビリルビン血症が認められた。
115	ホリナートカルシウム	大細胞型B細胞非ホジキンリンパ腫の化学療法において感染または敗血症性ショックによる死亡が認められた。
116	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	再発性骨髄性白血病患者にゲムツズマブオゾガマイシン投与、フルダラビン投与、メルファラン投与、同種造血肝細胞移植を行った試験において、100日治療関連死亡率は15%であった。
117	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	小児急性骨髄性白血病患者に対するゲムツズマブオゾガマイシン投与を含む治療において感染症による死亡が4例認められた。
118	ホスフェストロール	ジェチルスチルベストロールに子宮内暴露された女性はトリソミーの出現頻度が著しく高まる。
119	塩化スキサメニウム	スキサメニウム投与による副作用発症率は男性よりも女性で高く、スキサメニウム投与によるアレルギー反応に関連した死亡率は男性で著しく高かった。
120	酢酸メドロキシprogステロン	ホルモン補充療法において、エストロゲンと併用されるprogステロンで強いグルココルチ作用を持つものは、骨代謝に不利な作用を可能性が示唆された。
121	塩酸ドパミン	イノバン注シリンジ製剤の押子からガasketが外れた事例が報告された。
122	バルプロ酸ナトリウム	子宮内でバルプロ酸に暴露された幼児は、言語知能指数が低く、より特徴的な異形顔貌を有した。
123	カシユ含有医療用医薬品	ツルドクダミ(何首烏)を使用している患者で、肝臓関連の有害反応が起こる疑いがある。
124	エストラジオール	閉経後の女性に結合型エストロゲンを単独投与すると、下肢動脈疾患と腹部大動脈瘤それぞれのリスクは上昇しないが、両疾患をあわせたリスクは高まることが示唆された。
125	ホリナートカルシウム	手術不能頭頸部癌に対して、シスプラチン/fluorouracil/葉酸併用療法に続き放射線化学療法を実施する治療群とfluorouracil/葉酸/マイトマイシンC併用療法と同時に高分割放射線療法を実施する治療群を比較した非ランダム化試験において、前群で3例の死亡が確認された。
126	メトレキサート	びまん性大細胞性B細胞性リンパ腫患者に対するメトレキサートを含む併用療法の臨床試験において、肺炎による2例の死亡が認められた。
127	アセトアミノフェン	アセトアミノフェンの使用は喘息、夜間の息切れ、鼻炎などのアレルギー症状の頻度を有意に上昇させることが示唆された。
128	ジクロフェナクナトリウム	急性心筋梗塞後に選択的COX-II阻害剤を含むNSAIDによる治療を行うと、全てのNSAIDが患者の死亡率増加に関与し、高用量投与でさらに高くなることが示唆された。
129	バルプロ酸ナトリウム	子宮内でバルプロ酸に暴露された幼児は、言語知能指数が低く、より特徴的な異形顔貌を有した。

	一般名	概要
130	トレチノイン	妊娠マウスへのトレチノイン酸投与により、肺胞系の発達障害、複雑な心奇形が誘発が認められた。
131	ブソイドエフェドリン含有一般用医薬品	上気道炎患者で、急性細菌感染している16歳トルコ人男性にブソイドエフェドリン、パラセタモール等を投与すると、心筋梗塞が発症した。
132	オメプラゾール	乳幼児において、胃食道逆流性疾患の治療に胃酸分泌抑制剤を使用すると、急性胃腸炎や市中肺炎の感染リスクが高まることが示唆された。
133	ホスアンブレナビルカルシウム水和物	ホスアンブレナビルカルシウムのラット癌原性試験において、高用量で子宮内膜の限局性腺過形成および腺癌の発生頻度の増加が認められた。
134	ホリナートカルシウム	進行胃癌に対してfluorouracil/ロイコリン/トセタキセル併用療法を実施した試験で敗血症ショックによる死亡例が1例認められた。
135	ザルシタピン	ザルシタピン投与ラットにおいてミトコンドリアDNA障害以外の作用機序による心機能障害が認められた。
136	シクロスポリン	ザボンジュースがシクロスポリンのバイオアベイラビリティを上昇させることが報告された。
137	メトトレキサート	関節リウマチ治療中に死亡した57人について調査を行ったところ、メトトレキサートによる汎血球減少症による死亡が2例認められた。
138	アセトアミノフェン	NSAIDまたはアセトアミノフェンを多量服用(15錠/週)、あるいは頻回服用(22回以上/月)すると、重大な心血管イベント(非致死性心筋梗塞、致死性冠動脈性心疾患、非致死性・致死性脳卒中)発症のリスクが上昇することが示唆された。
139	チアマゾール	チアマゾールの添付文書の記載は、学会が提唱するガイドラインの投与量、投与方法と異なる。
140	プロピルチオウラシル	プロピルチオウラシルの添付文書の記載は、学会が提唱するガイドラインの投与量、投与方法と異なる。
141	肝不全用成分栄養剤(1)	子癇前症のリスクが高い妊婦2410人に抗酸化剤(ビタミンC,E)を投与したところ、子癇前症の発症率に大きな影響はなかったが、治療群で低体重児の生まれる確立が高いことが示唆された。
142	塩化スキサメニウム	スキサメニウム投与による副作用発症率は男性よりも女性で高く、スキサメニウム投与によるアレルギー反応に関連した死亡率は男性で高いことが示唆された。
143	ブスルファン	同種造血幹細胞移植におけるブスルファンを基本とした治療法において、ブスルファン静注群では再発死亡率、移植関連死亡率が高く、ブスルファン経口投与群では肝静脈閉塞症による死亡が認められた。
144	オキサプロジン	テノヒビルとNSAIDの併用で、腎不全発症のリスクがより高まる可能性がある。併用した3例に重篤な副作用(死亡、入院の必要な急性腎不全とネフローゼ症候群、透析)が生じた。
145	アセトアミノフェン	NSAIDまたはアセトアミノフェンを多量服用(15錠/週)、あるいは頻回服用(22回以上/月)すると、重大な心血管イベント(非致死性心筋梗塞、致死性冠動脈性心疾患、非致死性・致死性脳卒中)発症のリスクが上昇することが示唆された。
146	硫酸マグネシウム	切迫早産予防としてMgSO4を母体投与した新生児は、動脈管閉鎖の遅延や、未熟児動脈管開存症に対するインドメタシンの効果が減弱する可能性がある。
147	メシル酸イマチニブ	メシル酸イマチニブ投与患者では、尿へのリン酸排泄率が高く、骨形成・骨吸収マーカーが著明に減少することが示唆された。また、低リン酸群では、副甲状腺ホルモン値が高い傾向が見られた。
148	ペントスタチン	難治性慢性GVHDに対するペンスタチン投与で、感染症および進行性疾患での死亡が認められた。
149	硫酸マグネシウム	切迫早産予防としてMgSO4を母体投与した新生児は、動脈管閉鎖の遅延や、未熟児動脈管開存症に対するインドメタシンの効果が減弱する可能性がある。
150	塩酸ピオグリタゾン	高齢糖尿病女性患者において、チアゾリジンジオン系糖尿病用薬服用群で、非服用群と比べて全身、腰椎、大腿骨転子における骨密度の減少が認められた。
151	レノグラスチム(遺伝子組換え)	G-CSF投与を受けた健康人ドナーにおいて、フォローアップ3, 5, 6年後に3人が悪性腫瘍(結腸癌、肺癌、左目脈絡膜黒色腫)を発生したことが報告された。
152	レノグラスチム(遺伝子組換え)	同種移植後のG-CSF治療で肝静脈閉塞のリスクと死亡のリスクが上昇することが示唆された。

	一般名	概要
153	塩酸ピリドキシン	急性心筋梗塞の既往歴のある患者へのビタミンB6、ビタミンB12、葉酸の併用療法は、心血管系リスクの発生を高めることが示唆された。
154	経腸成分栄養剤(9)	子癇前症のリスクが高い妊婦2410人に抗酸化剤(ビタミンC,E)を投与したところ、子癇前症の発症率に大きな影響はなかったが、治療群で低体重児の生まれる確立が高いことが示唆された。
155	ジクロフェナクナトリウム	ジクロフェナク使用により、心筋梗塞のリスクが上昇することが示唆された。
156	コハク酸メチルプレドニゾロンナトリウム	急性呼吸窮迫症候群発症後、2週間以上経過した患者にメチルプレドニゾロンを投与すると、60日および180日目での死亡率が上昇することが示唆された。
157	塩酸ダウノルビシン	難治性再発性急性骨髄性白血病治療における塩酸ダウノルビシン、エトポシド、シタラビンと潜在的形質転換薬剤としてのテランドリンの併用において感染、骨髄抑制、口内炎、粘膜炎、小脳毒性、可逆性心毒性が認められた。
158	トリアゾラム	グレープフルーツジュースの長期暴露によって、CYP3A4阻害作用によるトリアゾラムのAUCの上昇が見られた。
159	トリアゾラム	グレープフルーツジュースの併用によるAUCの上昇は、CYP3A4に代謝されるトリアゾラムの方が、CYP3A4とCYP2C9で代謝されるクアゼパムより高かった。
160	リバビリン	2006年3月31日までにリバビリンを投与された妊娠症例2029例のうち、先天異常:39例、小児疾患:11例、人工中絶:322例、胎児死亡:152例が認められた。
161	ホリナートカルシウム	結腸癌の術後補助化学療法においてフルオロウラシル又はユーエフティとロイコボリンの併用療法により、死亡例が認められ、6-7%においてsecond primary cancerが認められた。
162	イトラコナゾール	イトラコナゾールとの併用により、P-糖タンパクとによる初回通過効果を減少させることでフェキソフェナジンのCmax、AUCを増加させることが示された。
163	タクロリムス水和物	末期の原発性胆汁性肝硬変のため肝移植を実施した患者において、シクロスポリン投与群よりもタクロリムス投与群のほうが、再発患者数が多く、再発までの期間も短かったことが報告された。
164	塩酸ミキサントロン	成人原発性急性骨髄性白血病に対する寛解導入化学療法および地固め化学療法にG-CSFを併用した試験において、感染、出血、多臓器不全等により死亡例が認められた。
165	塩酸ミキサントロン	慢性リンパ性白血病患者に対するフルダラビン、シクロホスファミド、ミキサントロン併用化学療法において、患者の8%にグレード3-4の好中球減少症、12%に中等度の感染症が認められた。また、患者2例が劇症B型肝炎を発症し、死亡した。
166	塩酸ミキサントロン	慢性骨髄性白血病の骨髄性芽球発症患者に対するイマチニブ、エトポシド、ミキサントロンの併用療法で頭蓋内出血・肺炎で1例ずつの死亡が認められた。
167	塩酸ミキサントロン	高リスクびまん性大細胞が多B細胞性リンパ腫において高用量第1選択強化化学療法(HDC)後にリツキシマブを投与した群と標準GELA ACVBP化学療法を比較したところ、前者でNCICグレード3-4の感染毒性が多かったものの毒性死亡率ほぼ同じであったことが示された。
168	塩酸ミキサントロン	ホルモン不応性前立腺患者に対するドセタキセル、ミキサントロンを含む試験において、死亡例が認められた。
169	塩酸ミキサントロン	予後不良のステージIII~IVのびまん性大細胞型B細胞性リンパ腫に対するミキサントロンを含む治療において、毒性死亡が認められた。
170	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	関節リウマチ患者に対する抗TNF抗体療法において、重篤な感染症および悪性腫瘍のリスクを増加させる可能性が示された。
171	ナプロキセン	NSAIDs服用と急性尿閉のリスクとの関連性が示唆された。
172	アセトアミノフェン	アセトアミノフェンの使用歴がある群で、パーキンソン病のリスクの上昇が見られた。
173	オメプラゾール	乳幼児において、胃食道逆流性疾患の治療に胃酸分泌抑制剤を使用すると、急性胃腸炎や市中肺炎の感染リスクが高まることが示唆された。
174	アセトアミノフェン	アセトアミノフェンとワーファリンの併用で、血液凝固時間が長くなった。
175	肺炎球菌ワクチン	慢性閉塞性肺疾患(COPD)と診断された患者での市中肺炎に対する23価の肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチンの予防効果を調査したところ、65歳以上の患者群では予防効果が示されなかった。



	一般名	概要
176	メトトレキサート	炎症性多発性関節炎患者では一般集団に比べてリンパ腫発現リスクが高く、特にメトトレキサート治療歴ありの患者で最もリスクが高かった。
177	ナルトグラスチム(遺伝子組換え)	同種移植後のG-CSF治療で肝静脈閉塞のリスクと死亡のリスクが上昇することが示唆された。
178	メトトレキサート	子宮頸部癌患者を対象としたMVAC療法(メトトレキサート、ビンブラスチン、ドキソルビシン、シスプラチン)において、他群よりも血液毒性が多く認められた。また、MVAC群において4例が好中球減少性敗血症により死亡した。
179	ブスルファン	高齢の骨髄性白血病患者に静注ブスルファンベースの治療法で幹細胞移植を行ったところ、副作用による死亡例が認められた。
180	ブスルファン	小児造血幹細胞移植の前処置にブスルファンの静注製剤を使用した24例をレトロスペクティブに調査したところ、6例(24%)で静脈閉塞性疾患が発症し、1例は致死的であったことが報告された。
181	ブスルファン	同種造血幹細胞移植患者に対して前処置として使用したブスルファンの低AUC群では60名中10名(17%)が死亡したのに対し、高AUC群では8名中3名(38%)の死亡が認められた。
182	塩酸キナプリル	ACE阻害剤は、昆虫毒や膜翅目にアレルギーのある人や、ハチ毒免疫療法を受けている人に深刻なアレルギー反応やアナフィラキシーショックを起こす可能性がある。
183	アプロチニン	アプロチニンの製造販売会社の国際有害事象データベースにおいてアプロチニン投与中に発生した「致命的でない過敏反応」の副作用自発報告の頻度が2004年と比較して2005年で増加していることが報告された。
184	ホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌においてFOLFOXIRI (fluorouracil/folinic acid(LV)/oxaliplatin/irinotecan) 群とFOLFIRI (fluorouracil/folinic acid(LV)/irinotecan) 群を比較したランダム化phase III studyにおいて各群2例ずつ、計4例で下痢を伴う発熱性好中球減少症による死亡が報告された。
185	カシユウ含有一般用医薬品	育毛のためにカシユウを服用していた7人で、肝臓の有害事象が報告された。
186	ノルフロキサシン	ラットにおいてノルフロキサシンに肝臓のinitiation作用を持つことが示唆された。
187	塩酸セベラマー	塩酸セベラマー使用患者で腸管閉塞・穿孔発症率が驚異的に多いため、ブラックボックス警告を要求する請願書がFDAに提出された。
188	ホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌に対するIFL療法 (irinotecan, fluorouracil bolus, leucovorin) において1例の治療関連死が認められ、17%に好中球減少症および下痢を含むグレード3-4の毒性が認められ、その後のFOLFOX療法では27%にグレード3-4の毒性が認められた。
189	ラタノプロスト	1年間のラタノプロスト点眼によって、日本人の眼の50%で虹彩色素沈着が誘発された。これは白人で報告されたものよりかなり高かった。
190	L-アルギニン塩酸塩	急性心筋梗塞後にL-アルギニン酸を接種すると、死亡率が高まる恐れがある。
191	エポエチン $\alpha$ (遺伝子組換え)	多発性骨髄腫に対するlenalidomideと高用量dexamethasoneの併用療法において、静脈血栓症のリスクが増大し、エリスロポエチン併用でさらに血栓症のリスクが増大することが示唆された。
192	エポエチン $\alpha$ (遺伝子組換え)	未熟児に投与された遺伝子組み換えエリスロポエチン総投与量が未熟児網膜症のリスクを増大させることが示唆された。
193	塩酸セベラマー	塩酸セベラマー使用患者で腸管閉塞・穿孔発症率が驚異的に多いため、ブラックボックス警告を要求する請願書がFDAに提出された。
194	ホリナートカルシウム	進行・再発結腸直腸癌に対するcelecoxib/irinotecan/fluorouracil/leucovorin併用療法において心臓又は血管の毒性が25%に認められた。
195	エストラジオール	エストロゲン単独使用での乳癌発症のリスクは、長期使用者においてのみ上昇することが示された。
196	トリアムシノロンアセトニド	妊娠したマウスにトリアムシノロンアセトニドを皮下注射した結果、28匹の胎子のうち5例が胎内死で、22例が口蓋裂だった。
197	漢方含有一般用医薬品	漢方薬の服用によって特発性腸間膜静脈硬化症を発症したと推測された1例が報告された。

	一般名	概要
198	ホリナートカルシウム	結腸直腸癌に対するoxaliplatin/fluorouracil/leucovorin併用療法において60日以内の死亡例が報告されている。また、グレード3以上の好中球減少症と血小板減少症の発現率は70歳以上でわずかに高かった。
199	ポルフィマーナトリウム	食道癌放射線化学療法後の局所遺残再発例34症例に対し、本剤投与後に光線力学療法を施行したところ、主な合併症として穿孔4例、食道狭窄17例、光過敏症2例が認められ、穿孔を認めた4例のうち、1例が縦隔炎、大動脈穿孔で死亡したことが報告された。
200	エポエチンβ(遺伝子組換え)	1985年1月1日から2005年4月30日までの公表論文等の中から癌患者に対するエポエチン及びダルベポエチン治療に関する57試験を体系的にレビューしたところ、エポエチンまたは、ダルベポエチンによる治療は血栓塞栓症のリスクを高めることが示唆された。
201	タゾバクタムナトリウム・ピペラシリンナトリウム	複雑性腹腔内感染症に対するピペラシリン/タゾバクタム投与患者に190例中2例で薬剤関連の重篤な有害事象(致命的な敗血症:1例、嘔吐、腎及び寛機能異常:1例)が認められた。
202	塩酸アザセトロン	塩酸アザセトロンの遅延性嘔気・嘔吐に対する有効性を評価するため、塩酸オンダンセトロンを対照薬とした非劣性試験を行ったが、非劣性は示し得なかった。
203	硫酸ビンクリスチン	非ホジキンリンパ腫患者1219名に対するCHOP療法(シクロホスファミド/トキソリン/ビンクリスチン/プレドニゾン)群では二次発癌発生の相対リスク(RR=1.6)の上昇が認められた。主に白血病、肺、結腸直腸癌が高かった。
204	キシナホ酸サルメテロール	長時間作用型β2刺激薬の使用は、重篤な喘息の憎悪、喘息関連死を起こす可能性がある。
205	カルバマゼピン	カルバマゼピンの遺伝毒性について、健康な人のリンパ球を用いて試験を行ったところ、遺伝毒性が示唆された。
206	塩酸キナプリル	妊娠第1三半期にACE阻害薬を服用すると、先天性奇形のリスクが高くなることが示唆された。
207	ホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌においてFOLFOXIRI (fluorouracil/folinic acid(LV)/oxaliplatin/irinotecan)群とFOLFIRI (fluorouracil/folinic acid(LV)/irinotecan)群を比較したランダム化phase III studyにおいて各群2例ずつ、計4例で下痢を伴う発熱性好中球減少症による死亡が報告された。
208	非ピリン系感冒剤(3)	NSAIDまたはアセトアミノフェンを多量服用(15錠/週)、あるいは頻回服用(22回以上/月)すると、重大な心血管イベント(非致死性心筋梗塞、致死性冠動脈性心疾患、非致死性・致死性脳卒中)発症のリスクが上昇することが示唆された。
209	オキサプロジン	選択的COX-II阻害剤と同じく、NSAIDも心筋梗塞の発症リスクを高めることが示唆された。
210	ホリナートカルシウム	EGFR発現型転移性結腸直腸癌に対するセレコキシブとFOLFIRI (irinotecan+folinic acid+fluorouracil)の併用治療で3例の化学療法関連死が認められた。
211	非ピリン系感冒剤(3)	NSAIDまたはアセトアミノフェンを多量服用(15錠/週)、あるいは頻回服用(22回以上/月)すると、重大な心血管イベント(非致死性心筋梗塞、致死性冠動脈性心疾患、非致死性・致死性脳卒中)発症のリスクが上昇することが示唆された。
212	塩酸ミキサントロン	60歳以上の進行性非ホジキンリンパ腫に対するCHOP(シクロホスファミド+トキソリン+ビンクリスチン+プレドニゾン)および、PMtiCEBO(ミキサントロン+シクロホスファミド+エトポシド+ビンクリスチン+プレドニゾン)にG-CSF併用・非併用を組み合わせさせた4群での比較試験において、全群で感染症や心臓関連の死亡例が認められた。
213	塩酸テモカプリル	経口避妊薬とボセンタンの併用で、ノルエチステロンとエチニルエストラジオールのAUCが減少した。
214	デキサメタゾン	多発性骨髄腫の患者にレナリドミドと高用量デキサメタゾンを併用すると、血栓症の発症リスクが高まることが示唆された。
215	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊薬とボセンタンの併用で、ノルエチステロンとエチニルエストラジオールのAUCが減少した。
216	メトトレキサート	薬剤性肺炎67症例のうち、8例が死亡に至ったが、その死亡例8例の原因薬剤は、ゲフィチニブ3例、メトトレキサート3例、漢方と抗癌剤が1例ずつであったことが報告された。
217	ジダノシン	スペインの大規模HIV外来2施設におけるレトロスペクティブ調査の結果、抗レトロウイルス療法を受けたHIV陽性患者3200例のうち、17例で特発性肝疾患が認められ、特に、長期ジダノシン曝露との関連が示唆された。

	一般名	概要
218	塩酸アザセトロン	セロトーンの遅延性嘔気・嘔吐に対する有効性を評価するため、ゾフランを対照薬とした非劣性試験を行ったが、非劣性は示し得なかった。
219	非ピリン系感冒剤(2)	NSAIDまたはアセトアミノフェンを多量服用(15錠/週)、あるいは頻回服用(22回以上/月)すると、重大な心血管イベント(非致死性心筋梗塞、致死性冠動脈性心疾患、非致死性・致死性脳卒中)発症のリスクが上昇することが示唆された。
220	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	高齢の再発性急性骨髄性白血病患者に対するゲムツズマブオゾガマイシン、シトシンアラビノシド、G-CSF併用治療において、完全寛解中に1例が膀胱癌再発、1例が虚血性脳卒中で死亡した。なお、最も頻度の高い有害事象は骨髄抑制であったことが報告された。
221	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	高齢の急性骨髄性白血病患者に対するゲムツズマブオゾガマイシン、フルダラビン、シタラビン、イダルビシン併用療法にゲムツズマブオゾガマイシン単独療法を強化療法として追加した試験において、2例が血小板数が $20 \times 10^9/L$ 以上であったが中枢神経系出血により死亡したことが報告された。
222	マレイン酸フルボキサミン	母親が妊娠中にSSRIを服用していた新生児で、出産時低体重、早産児出産、胎児死亡、痙攣のリスクが高まることが示唆された。
223	マレイン酸フルボキサミン	母親が妊娠中にSSRIを服用していた新生児で、出産時低体重、早産児出産、胎児死亡、痙攣のリスクが高まることが示唆された。
224	マレイン酸エナラプリル	妊娠第1三半期にACE阻害薬を服用すると、先天性奇形のリスクが高くなることが示唆された。
225	塩酸アミトリプチリン	メタドンの偶発的過量投与による死亡例をレトロスペクティブに解析すると、三環系抗うつ薬、ベンゾジアゼピン系薬またはその両方の併用例が高かった。
226	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	60歳以下の新規診断急性骨髄性白血病患者に対する高用量シタラビン、ゲムツズマブオゾガマイシンのDose Dense療法において1例が播種性アスペルギルス感染により投与30日以内に死亡したことが報告された。
227	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	未治療の高齢急性骨髄性白血病患者に対するダウノルビシン、シタラビン、ゲムツズマブオゾガマイシン併用試験において、4例(敗血症、頭蓋内出血、穿孔性虫垂、末梢血中芽球)の死亡が報告された。
228	トランドラプリル	妊娠第1三半期にACE阻害薬を服用すると、先天性奇形のリスクが高くなることが示唆された。
229	カプトプリル	妊娠第1三半期にACE阻害薬を服用すると、先天性奇形のリスクが高くなることが示唆された。
230	テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム	Linitis Plastica型胃癌患者19例にテガフル・ギメラシル・オテラシルカリウムを投与したところ、グレード3以上の好中球減少4例、発熱性好中球減少1例、貧血1例が認められた。
231	アセトアミノフェン	NSAIDまたはアセトアミノフェンを多量服用(15錠/週)、あるいは頻回服用(22回以上/月)すると、重大な心血管イベント(非致死性心筋梗塞、致死性冠動脈性心疾患、非致死性・致死性脳卒中)発症のリスクが上昇することが示唆された。
232	塩酸イリノテカン	結腸直腸癌の肝転移切除例において、術前化学療法なし群に比較して、フルオロウラシル+イリノテカン群で脂肪性肝炎の発現率が有意に高く(P=0.0001)、フルオロウラシル+オキサリプラチン群は肝類洞拡張の発現率が有意に高かった(P=0.00001)。
233	メトトレキサート	成人バーキットリンパ腫または急性リンパ芽球性白血病に対するHyper-CVAD療法(シクロホスファミド+ビンクリスチン+キソルビシン+デキサメタゾン)+リツキシマブ+メトトレキサート+シタラビンによる化学療法で高齢患者1例の多臓器不全を伴うサイトメガロウイルス肺炎による死亡が認められた。
234	トランドラプリル	妊娠第1三半期にACE阻害薬を服用すると、先天性奇形のリスクが高くなることが示唆された。
235	シラザプリル	妊娠第1三半期にACE阻害薬を服用すると、先天性奇形のリスクが高くなることが示唆された。
236	キシナホ酸サルメテロール	慢性閉塞性肺疾患をもつ患者にβ2刺激薬を使用すると、呼吸器起因性の死亡率が高まることを示唆された。
237	プレドニゾロン	急性胸部症候群の患者にコルチコステロイドの治療を行うと、治療後の再入院の危険が高まることを示唆された。

	一般名	概要
238	ジソピラミド	不整脈の治療にリン酸ジソピラミドを使うと、洞リズムの調整に効果はあるが、クラス1A薬(リン酸ジソピラミド、キニジン硫酸塩)は死亡率を高める可能性がある。
239	アセトアミノフェン	NSAIDまたはアセトアミノフェンを多量服用(15錠/週)、あるいは頻回服用(22回以上/月)すると、重大な心血管イベント(非致死性心筋梗塞、致死性冠動脈性心疾患、非致死性・致死性脳卒中)発症のリスクが上昇する。
240	エポエチン $\alpha$ (遺伝子組換え)	1985年1月1日から2005年4月30日までの公表論文等の中から癌患者に対するエポエチン及びダルベポエチン治療に関する57試験を体系的にレビューしたところ、エポエチンまたは、ダルベポエチンによる治療は血栓塞栓症のリスクを高めることが示唆された。
241	フィルグラスチム(遺伝子組換え)	先天性好中球減少症患者においてG-CSF投与により、骨髄異形成症候群および、急性骨髄性白血病の危険率が長期間をかけて有意に増加した(P<0.001)ことが報告された。
242	ブスルファン	急性および慢性骨髄性白血病患者に対する経口ブスルファンとフルダラビンベースの治療法を用いて同種幹細胞移植前処置を行ったところ、因果関係が否定できない死亡例が報告された。
243	塩酸イリノテカン	結腸直腸癌の肝転移切除例において、術前化学療法なし群に比較して、フルオロウラシル+イリノテカン群で脂肪性肝炎の発現率が有意に高く(P=0.0001)、フルオロウラシル+オキサリプラチン群は類洞拡張の発現率が有意に高かった(P=0.00001)。
244	ホリナートカルシウム	進行結腸直腸癌に対するFOLFIRI-3(irinotecanをfluorouracil/leucovorin療法の前後に分けて投与する治療法)により、グレード4の粘膜炎2例、下痢1例、無力症3例、好中球減少11例、発熱性好中球減少3例、貧血が2例認められた。また、1コース目終了後に、好中球減少と下痢を伴った敗血症性ショックによる毒性死亡が1例みとめられた。
245	塩酸デラプリル	妊娠第1三半期にACE阻害薬を服用すると、先天性奇形のリスクが高くなることが示唆された。
246	イトラコナゾール	イトラコナゾールの前処置やCYP2D6*10遺伝子多型がハロペリドールの薬物動態に影響を与えることが示唆された。
247	塩酸ピオグリタゾン	チアゾリジン系薬剤による治療を受けた糖尿病患者のレトロスペクティブ症例集積調査の結果、チアゾリジン系薬剤と黄斑浮腫の関連性が示唆された。
248	エストリオール	閉経後の女性に結合型エストロゲンを単独投与すると、虚血性脳卒中発症のリスクが高まった。
249	イブプロフェン	NSAIDまたはアセトアミノフェンを多量服用(15錠/週)、あるいは頻回服用(22回以上/月)すると、重大な心血管イベント(非致死性心筋梗塞、致死性冠動脈性心疾患、非致死性・致死性脳卒中)発症のリスクが上昇することが示唆された。
250	アセトアミノフェン含有一般用医薬品	NSAIDまたはアセトアミノフェンを多量服用(15錠/週)、あるいは頻回服用(23回以上/月)すると、重大な心血管イベント(非致死性心筋梗塞、致死性冠動脈性心疾患、非致死性・致死性脳卒中)発症のリスクが上昇することが示唆された。
251	ミツロウ	正中胸骨切開術後の18例中17例にミツロウ肉芽腫が認められ、ミツロウは吸収されず、慢性炎症を引き起こすことが示唆された。
252	マレイン酸エナラプリル	妊娠第1三半期にACE阻害薬を服用すると、先天性奇形のリスクが高くなることが示唆された。
253	レフルノミド	レフルノミドが選択的整形外科手術後の創傷治癒合併症リスクを上昇させることが示唆された。
254	トレチノイン	急性骨髄性白血病に対するAIDA療法により、16例中6例の死亡が認められた。
255	アラセプリル	妊娠第1三半期にACE阻害薬を服用すると、先天性奇形のリスクが高くなることが示唆された。
256	エストラジオール	エストロゲン単独使用での乳癌発症のリスクは、長期使用者においてのみ上昇することが示された。
257	高カロリー輸液用総合ビタミン剤(6)	健康な妊婦において、ビタミンCおよびE摂取で子癩前症、胎児異常、胎児死亡、出生時低体重、妊娠性高血圧はプラセボ群と有意差が認められなかったが、高血圧のために出産前に降圧剤を使用するリスクの上昇がみられた。



	一般名	概要
258	リシノプリル	妊娠第1三半期にACE阻害薬を服用すると、先天性奇形の高くなることが示唆された。
259	エキセメスタン	ステロイド性アロマトラーゼ阻害薬(エキセメスタン)も非ステロイド性アロマトラーゼ阻害薬(アナストゾール、レトゾール)も骨代謝に影響を与えることが示唆された。
260	塩酸イミダプリル	妊娠第1三半期にACE阻害薬を服用すると、先天性奇形の高くなることが示唆された。
261	塩酸フェキシソフェナジン	イトラコナゾールとの併用により、P-糖タンパクとによる初回通過効果を減少させることでフェキシソフェナジンのC <sub>max</sub> 、AUCを増加させた。
262	肺炎球菌ワクチン	プロスペクティブ多施設二重盲検無作為化プラセボ比較試験において、23価肺炎球菌ワクチンは中高年患者に対して、肺炎一般もしくは肺炎球菌性肺炎の予防効果がないことが示唆された。
263	イブプロフェン	選択的COX-II阻害剤と同じく、NSAIDも心筋梗塞の発症リスクを高めることが示唆された。
264	リシノプリル	黒人や東アジア人でACE阻害薬の使用による血管浮腫、咳喘の発現リスクが高かった。
265	インドメタシン	選択的COX-II阻害剤と同じく、NSAIDも心筋梗塞の発症リスクを高めることが示唆された。
266	ホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌に対するIFL療法(irinotecan, fluorouracil bolus, leucovorin)において1例の治療関連死が認められ、17%に好中球減少症および下痢を含むグレード3-4の毒性が認められ、その後のFOLFOX療法では27%にグレード3-4の毒性が認められた。
267	ホリナートカルシウム	進行・再発結腸直腸癌に対するcelecoxib/irinotecan/fluorouracil/leucovorin併用療法において心臓又は血管の毒性が25%に認められた。
268	リン酸クリンダマイシン	一病院においてリン酸クリンダマイシンの使用量と抗菌剤関連性腸炎を疑うC.difficile検出数の間に有意な正の相関が認められた。
269	ホウ酸	妊娠初期にホウ酸の膣錠投与を行うと、新生児の先天異常のリスクが上昇した。
270	エストリオール	子宮を摘出した女性に対するエストロゲン単独のホルモン補充療法は、静脈血栓症の発現リスクを高める。
271	レノグラスチム(遺伝子組換え)	G-CSF投与により、好中球が活性化され、血小板好中球複合体の形成により、血栓が形成される可能性がある。
272	レノグラスチム(遺伝子組換え)	先天性好中球減少症患者においてG-CSF投与により、骨髄異形成症候群および、急性骨髄性白血病の危険率が長期間をかけて有意に増加した(P<0.001)。
273	レノグラスチム(遺伝子組換え)	ステージI、IIの女性乳癌に対してアジュバントEC療法(エピルピシン、シクロホスファミド)を施行した患者に対するG-CSF投与により貧血が悪化する可能性がある。
274	テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム	遠隔転移を有する進行性膀胱癌患者におけるゲムシタピン+テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウムの併用第II相臨床試験33例において、グレード3の間質性肺炎による治療中止例2例が認められた。
275	メトレキサート	パーキッリンパ腫患者に対するメトレキサート+エトポシドの治療により、治療関連合併症(2例)と病勢進行(1例)での死亡が報告された。
276	塩酸ミキサントロン	新規急性骨髄性白血病に対するMEC(ミキサントロン+エトポシド+シタラビン)療法で寛解導入中に3名がコントロール不能の感染で死亡したことが報告された。
277	メトレキサート	中枢神経原発リンパ腫に対する大量メトレキサート、大量ブスルファン/チオテパ処理による自家幹細胞移植、全脳放射線照射による治療で、3例の治療関連死が報告された。
278	塩酸ミキサントロン	再発および難治性の成人白血病患者に対するシタラビン+ミキサントロン+Flavopiridol投与により、死亡例3例(真菌血症、呼吸困難、多臓器不全)が報告された。

	一般名	概要
279	塩酸ミキサントロン	びまん性大細胞型B細胞リンパ腫に対するミキサントロンを含む治療を受けた患者において、2例の死亡例が報告された(肺炎1例、JCウイルス感染による白質脳症1例)。
280	塩酸ミキサントロン	ホジキンリンパ腫の再発患者に対するミキサントロンを含む治療において、5例の死亡が報告された。
281	エストラジオール	BMI $\leq$ 24.9kg/m <sup>2</sup> でホルモン療法を受けていない女性は、BMI $\geq$ 30kg/m <sup>2</sup> の女性に比べ乳がんの発症リスクが高まるが、ホルモン療法を受けている女性は、BMIに関わらず乳がん発症リスクは高いことが示唆された。
282	ジクロフェナクナトリウム	選択的COX-II阻害剤は血管イベント(心筋梗塞、卒中、血管死)の発症リスク上昇に関与し、高用量のイブプロフェン、ジクロフェナク投与も血管イベント発症リスクを高めることが示唆された。
283	フェノバルビタールナトリウム	抗てんかん薬を長期(12年以上)使用した女性で骨折リスクの増加が示唆された。
284	硫酸サルブタモール	早産治療を目的とした妊婦へのサルブタモール静脈内投与は虚血性心疾患の発症を高めることが示唆された。
285	メトトレキサート	鼻NKT細胞性リンパ腫に対するm-BACOD(メトトレキサート、プレオマイシン、ドキシルピシン、シクロホスファミド、ビンクリスチン、デキサメタゾン)化学療法と放射線療法において、1例の治療関連死が報告された。
286	フィナステリド	不定期かつ短期間のフィステナリドや $\alpha$ ブロッカーの使用は、前立腺癌になるリスクを高める。
287	硫酸サルブタモール	早産治療を目的とした妊婦へのサルブタモール静脈内投与は虚血性心疾患の発症を高めることが示唆された。
288	キシナホ酸サルメテロール	4歳未満の喘息患者へのセレベント投与では、プラセボ群と比較して有効性に有意さが見られなかった。
289	ホリナートカルシウム	EGFR発現型転移性結腸直腸癌に対するセレコキシブとFOLFIRI(irinotecan+folinic acid+fluorouracil)の併用治療で3例の化学療法関連死が認められた。
290	ホリナートカルシウム	結腸直腸癌に対するoxaliplatin/fluorouracil/leucovorin併用療法において60日以内の死亡例が報告されている。また、グレード3以上の好中球減少症と血小板減少症の発現率は70歳以上でわずかに高かった。
291	ジクロフェナクナトリウム	選択的COX-II阻害剤は血管イベント(心筋梗塞、卒中、血管死)の発症リスク上昇に関与し、高用量のイブプロフェン、ジクロフェナク投与も血管イベント発症リスクを高めることが示唆された。
292	イブプロフェン・アセトアミノフェン含有一般用医薬品	選択的COX-II阻害剤と同じく、NSAIDも心筋梗塞の発症リスクを高めることが示唆された。
293	エストロゲン〔結合型〕	エストロゲン単独使用での乳がん発症のリスクは、長期使用者においてのみ上昇することが示された。
294	イトラコナゾール	イトラコナゾールとリファンピシンはヒトでのエバスタチンとその代謝物(カレバスタチン)の薬物動態および、抗ヒスタミン作用を有意に変化させたが、CYP2J2*8遺伝子多型はCYP3A4にほとんど影響を与えないことが示唆された。
295	臭化水素酸デキストロメトर्फアン	HIV感染患者では、ロピナビルとリトナビルの併用がデキストロメトर्फアンのCYP2D6による代謝を阻害することが示唆された。
296	オメプラゾール	プロトンポンプ阻害剤は急性膵炎発症リスクを高める可能性がある。
297	フィルグラスチム(遺伝子組換え)	高濃度エピルピシン+シクロホスファミド投与を受けている女性乳がん患者における貧血の悪化にG-CSFの用量依存的な作用が関与している可能性が示唆された。
298	ジクロフェナクナトリウム	選択的COX-II阻害剤は血管イベント(心筋梗塞、卒中、血管死)の発症リスク上昇に関与し、高用量のイブプロフェン、ジクロフェナク投与も血管イベント発症リスクを高めることが示唆された。
299	オメプラゾール	プロトンポンプ阻害剤は急性膵炎発症リスクを高める可能性がある。
300	人血清アルブミン	市販のアルブミン製剤は加熱処理で生じたアスパルティルアラニル・ジケトピペラジンによりin vitroにおいて、免疫抑制作用を示すことが示唆された。
301	アスコルビン	子癇前症のリスクが高い妊婦2410人に抗酸化剤(ビタミンC,E)を投与したところ、子癇前症の発症率に大きな影響はなかったが、治療群で低体重児の生まれる確立が高いことが示唆された。

	一般名	概要
302	アセトアミノフェン	H2受容体拮抗薬とアセトアミノフェンの併用により、アセトアミノフェンの血漿中濃度が上昇することが示唆された。
303	イオジキサノール	冠血管形成術後の血栓症関連の有害事象発症率は、イオキサグレートよりもイオジキサノールの方が高かった。
304	マレイン酸フルボキサミン	高齢者(66歳以上)のSSRIの使用は治療開始1ヶ月間での自殺既遂の危険性を高めることが示唆された。
305	マレイン酸フルボキサミン	高齢者(66歳以上)のSSRIの使用は治療開始1ヶ月間での自殺既遂の危険性を高めることが示唆された。
306	メトトレキサート	中枢神経原発リンパ腫患者に対するMATILDE療法(高用量メトトレキサート、チオテパ、イダルビシン、ビンクリスチン)において、41例中4例に毒性による死亡が報告された。
307	イトラコナゾール	健康人を対象とした無作為化クロスオーバー試験において、イトラコナゾール、gemfibrozil及びこれらの併用により血漿中ロペラミド濃度が有意に上昇することが示唆された。
308	メトトレキサート	メトトレキサート投与の小児非ホジキンリンパ腫患者においてMTHFRの変異型と予後、治療関連毒性の間に関連性は認められなかった。また、治療関連死として13例が報告された。
309	イトラコナゾール	イトラコナゾールの前処置やCYP2D6*10遺伝子多型がハロペリドールの薬物動態に影響を与えることが示唆された。
310	エストラジオール	悪性度の高い子宮内膜間質性肉腫の患者10例の内、5例がエストロゲン補充療法使用者であった。
311	エストラジオール	エストロゲン単独使用でのコメド癌発症のリスクが上昇した。
312	グリベンクラミド	妊娠中の糖尿病患者を対象としたレトロスペクティブ調査において、先天異常、巨大児、新生児低血糖、新生児呼吸困難が認められた。
313	塩酸ゲムシタピン	非小細胞肺癌(NSCLC)細胞の抗癌剤処理によるアポトーシスは、ニコチンによって抑制されることが示唆された。
314	フロセミド	うっ血性心不全の患者にフロセミドを投与した場合の急性腎不全発症リスク因子は、年齢、腎機能基準値、心室収縮不全、血清ナトリウム値、平均血圧、利尿剤投与量などである。
315	スピロラクトン	重篤な高カリウム血症のため緊急透析を要した10例の内、8例がACE/ARBを使用し、うち3例はスピロラクトンを併用していた。
316	ニトログリセリン	ラットにおいて、金属成分を含む添付薬を使用したまま実験用MRI装置で検査を行うと、添付薬の剥離部で100度の温度上昇がみられた。
317	イブプロフェン・アセトアミノフェン含有一般用医薬品	アセトアミノフェンと5-HT3受容体拮抗剤の併用で、アセトアミノフェンの鎮痛作用が阻害されることが示唆された。
318	ジクロフェナクナトリウム	選択的COX-II阻害剤やジクロフェナクナトリウムの14日以内の投与により、急性心筋梗塞の発症リスクが高まることが示唆された。
319	タゾバクタムナトリウム・ピペラシリンナトリウム	院内肺炎に対するピペラシリン/タゾバクタム(P/T)とイメペネム/シラスチン(I/C)の比較試験において、P/T群に薬剤との関連性が否定できない死亡例2例が報告された。
320	塩酸フェキソフェナジン	健康人を対象とした試験において、リトナビル単独、もしくはロピナビル・リトナビルの前投与により、フェキソフェナジンのCmaxおよびAUCが有意に増加することが示唆された。
321	サキナビル	HIV関連感覚性ニューロパシーの発現とジデオキシヌクレオシドやプロテアーゼ阻害剤の曝露に関連性が認められた。
322	メシル酸サキナビル	HIV関連感覚性ニューロパシーの発現とジデオキシヌクレオシドやプロテアーゼ阻害剤の曝露に関連性が認められた。
323	塩酸グラニセトロン	カイトリル注とアスポキシリン錠剤、塩酸ニムスチン、塩酸アムルピシンとの配合により、混濁が認められ、カイトリルの力価低下が見られた。
324	ムロモナブーCD3	腎移植患者において、モロナブーCD3モノクローナル抗体やリンフォグロブリン、horse antithymocyte globulin投与群で非ホジキンリンパ腫発現のリスクが高いことが示唆された。

	一般名	概要
325	トコフェロール含有一般用医薬品	子癇前症のリスクの高い女性へのビタミンC、ビタミンEの投与により、低体重出生児の割合が増加した。
326	ポルフィマーナトリウム	腹膜癌腫および肉腫患者に対するポルフィマーナトリウムと光線力学療法を使用した治療により、2例の死亡が報告された。
327	アトルバスタチンカルシウム	アトルバスタチンによる筋障害の既往のある患者群で、本剤代謝物のアトルバスタチンラクトン、o-およびp-ヒドロキシアトルバスタチンのAUC、Cmaxが有意に高かった。
328	ナプロキセン	緩解期の炎症性腸症候群(クローン病、潰瘍性大腸炎)の患者への非選択的NSAIDも投与すると、統計的に有意な再発が見られた。
329	オメプラゾール	プロトンポンプ阻害剤は多発性筋炎を含むミオパシーの発現に関与している可能性が高かった。
330	ホリナートカルシウム	進行結腸直腸癌に対するFOLFIRI-3 (irinotecanをfluorouracil/leucovorin療法の前後に分けて投与する治療法)により、グレード4の粘膜炎2例、下痢1例、無力症3例、好中球減少11例、発熱性好中球減少3例、貧血が2例認められた。また、1コース目終了後に、好中球減少と下痢を伴った敗血症性ショックによる毒性死亡が1例みとめられた。
331	ジクロフェナクナトリウム	選択的COX-II阻害剤やジクロフェナクナトリウムの14日以内の投与により、急性心筋梗塞の発症リスクが高まることが示唆された。
332	エキセメスタン	骨転移による併用療法を受けている閉経後乳癌患者に対するエキセメスタン投与により、骨代謝マーカーの有意な変化が認められた。
333	エキセメスタン	転移性乳癌患者に対するエキセメスタン投与により、骨吸収および骨代謝マーカーが共に有意な増加が認められた。
334	エストラジオール	BMI $\leq$ 24.9kg/m <sup>2</sup> でホルモン療法を受けていない女性は、BMI $\geq$ 30kg/m <sup>2</sup> の女性に比べ乳管癌の発症リスクが高まるが、ホルモン療法を受けている女性は、BMIに関わらず乳癌発症リスクは高かった。
335	オメプラゾール	プロトンポンプ阻害剤は多発性筋炎を含むミオパシーの発現に関与している可能性が高い。
336	ヘパリンナトリウム	ラット胚を用いたin vitro試験において、ヘパリンおよび低分子ヘパリンが胚に対し、遺伝毒性を示す可能性が示唆された。
337	アルファカルシドール	副甲状腺機能低下症患者において、医原性高カルシウム血症による急性腎不全の発生頻度が高い可能性が示唆された。
338	クエン酸タモキシフェン	タモキシフェン20mg/dayを1年以上投与された患者で子宮肉腫が発現する可能性が高いことが示唆された。
339	クエン酸タモキシフェン	タモキシフェン20mg/dayを1年以上投与された患者で子宮肉腫が発現する可能性が高いことが示唆された。
340	メシル酸イマチニブ	10名の慢性骨髄性白血病患者に対するメシル酸イマチニブ投与で全例に左心室機能不全が報告された。さらに、マウス・心筋細胞を用いた非臨床試験でメシル酸イマチニブが小胞体やミトコンドリアの機能不全により心筋細胞死を誘導することが示唆された。
341	塩酸イリノテカン	グルクロン酸転移酵素 (UGT1A1) の遺伝子多型がイリノテカンの薬物動態や安全性に関与することが示唆された。 UGT1A1*6/*6; 活性代謝物 (SN-38) のAUC有意に高く、グレード4の好中球減少症に関連することが示唆された。 UGT1A9-118 (T)9/9、UGT1A7*3/*3; 活性代謝物 (SN-38) のAUC有意に高く、グレード3の下痢に関連することが示唆された。
342	肺炎球菌ワクチン	肺炎球菌ワクチン接種群と非接種群を比較したコホート試験において、肺炎による死亡のリスクは有意に減少したが、肺炎のための入院、肺炎全体のリスクに有意な減少はみられなかった。
343	イトラコナゾール	健常人を対象とした無作為化クロスオーバー試験において、イトラコナゾール、gemfibrozil及びこれらの併用により血漿中ロペラミド濃度が有意に上昇することが示唆された。
344	エポエチン $\alpha$ (遺伝子組換え)	エリスロポエチン製剤は未熟児網膜症の増悪因子の一つである可能性が示唆された。
345	アセトアミノフェン	小児の急性肝不全患者348例のうち、48例でアセトアミノフェン投与が原因とされ、うち2例が死亡した。



	一般名	概要
346	塩酸イリノテカン	グルクロン酸転移酵素 (UGT1A1) の遺伝子多型がイリノテカンの薬物動態や安全性に関与することが示唆された。 UGT1A1*6/*6; 活性代謝物 (SN-38) のAUC有意に高く、グレード4の好中球減少症に関連することが示唆された。 UGT1A9-118 (T)9/9、UGT1A7*3/*3; 活性代謝物 (SN-38) のAUC有意に高く、グレード3の下痢に関連することが示唆された。
347	ジクロフェナクナトリウム	選択的COX-II阻害剤やジクロフェナクナトリウムの14日以内の投与により、急性心筋梗塞の発症リスクが高まることが示唆された。
348	エストラジオール	悪性度の高い子宮内膜間質性肉腫の患者10例の内、5例がエストロゲン補充療法使用者であった。
349	ヨード化ケシ油脂肪酸エチルエステル	肝動脈塞栓術が施行された63例において、肝腫瘍2件、壊疽性胆嚢炎1件の合併症が認められた。
350	ジクロフェナクナトリウム	ジクロフェナクは他のNSAIDsと比べ、胃粘膜障害、潰瘍発生率が高いことが示唆された。
351	ジクロフェナクナトリウム	選択的COX-II阻害剤は血管イベント(心筋梗塞、卒中、血管死)の発症リスク上昇に関与し、高用量のイブプロフェン、ジクロフェナク投与も血管イベント発症リスクを高めることが示唆された。
352	エストラジオール	エストロゲン単独使用でのコメド癌発症のリスクが上昇した。
353	インドメタシン	極低出生体重児で消化管穿孔をきたした6例を調べたところ、全例がインドメタシン使用例であり、うち3例が死亡した。
354	デキサメタゾン	母親が妊娠32週以内でグルココルチコイドによる治療を受けたとき、生後1ヶ月以内の乳児で血圧上昇、心筋壁の肥厚がみとめられた。
355	ワルファリンカリウム	心房細動を有する患者を対象としたレトロスペクティブコホート調査において、特に男性におけるワルファリンの長期投与が骨粗鬆症による骨折に関連する可能性がある。
356	デキサメタゾン	多発性骨髄腫の導入療法としたデキサメタゾン単独療法により11人が死亡し、うち4人は治療と関連する感染症、呼吸不全、卒中発作、消化管出血による死亡だった。
357	フルコナゾール	健康男性被験者を対象としたオープン無作為交差試験において、フルコナゾールおよびボリコナゾール投与後のイブプロフェン投与により、CYP2C9の阻害によると考えられるS(+)-イブプロフェンのAUCの増加、Cmaxの上昇、T1/2の延長が認められた。
358	ジクロフェナクナトリウム	選択的COX-II阻害剤やジクロフェナクナトリウムの14日以内の投与により、急性心筋梗塞の発症リスクが高まることが示唆された。
359	テガフル・ウラシル	結腸・直腸癌を対象としたフルオウラシル/ホリナートカルシウム群とテガフル・ウラシル/ホリナートカルシウム群の比較試験において、後群でグレード4の肝機能障害が1例認められた。
360	ジゴキシシン	ウルソデオキシコール酸とジゴキシシンの併用で、ジゴキシシンの血中濃度の低下が見られた。
361	ケトプロフェン	ケトプロフェンの投与により、急性膵炎の発症リスクが高まることが示唆された。
362	テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム	進行食道癌患者を対象としたテガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム/シスプラチン併用放射線療法の臨床試験において、1例がgrade4の好中球減少から敗血症に至り死亡したことが報告された。
363	オキサリプラチン	オキサリプラチンを含む治療を受けた消化器癌患者90例を対象としたレトロスペクティブ調査において、グルタチオンS-トランスフェラーゼ (GST) 遺伝子多型と累積末梢神経障害発現リスクに関連性が認められた。
364	テガフル	直腸癌患者に対する術前化学療法としてテガフル坐剤投与により、グレード4の白血球減少、食思不振(食欲不振)各1例が認められた。また、術後合併症として感染症17例、縫合不全7例が認められた。
365	リネゾリド	海外で実施されたグラム陽性菌によるカテーテル性血流感染症に対する非盲検無作為化臨床試験において、対象群(9.9%)と比較してリネゾリド群(15.2%)の死亡率が高かった。
366	フルコナゾール	健康男性被験者を対象としたオープン無作為交差試験において、フルコナゾールおよびボリコナゾール投与後のイブプロフェン投与により、CYP2C9の阻害によると考えられるS(+)-イブプロフェンのAUCの増加、Cmaxの上昇、T1/2の延長が認められた。
367	エポエチンβ (遺伝子組換え)	28週未満の児に対するレーザーあるいは凍結凝固法による手術例においてエリスロポエチン製剤の使用により、未熟児網膜症の手術率が増加することが示唆された。

	一般名	概要
368	エポエチンβ (遺伝子組換え)	在胎28週未満の児に対するエリスロポエチン製剤投与は投与の早期中止により手術率、反復手術率が低下することが示唆された。
369	シクロスポリン	健常人を対象とした無作為化クロスオーバー試験において、フラノクマリン系薬剤であるメキサレンがシクロスポリンの薬物動態に影響を与えることが示唆された。
370	ホスアンプレナビルカルシウム水和物	ホスアンプレナビルカルシウム水和物の長期がん原性試験(104週)において、雄マウスで肝細胞腺腫および肝細胞癌の増加がみられた。また、雌雄ラットでは肝細胞腺腫および甲状腺濾胞細胞腺腫の増加がみられた。
371	イブプロフェン	選択的COX-II阻害剤は血管イベント(心筋梗塞、卒中、血管死)の発症リスク上昇に関与し、高用量のイブプロフェン、ジクロフェナク投与も血管イベント発症リスクを高めることが示唆された。
372	リファンピシン	健常人を対象とした無作為化交差試験において、リファンピシンの前投与によりCYP1A2が誘導され、チザニジンの薬物動態に影響を与えることが示唆された。
373	スピロラクトン	スピロラクトン投与と患者において、上部胃腸出血や胃十二指腸潰瘍のリスク上昇が示された。
374	アスピリン	選択的COX-II阻害剤と同じく、NSAIDも心筋梗塞の発症リスクを高めることが示唆された。
375	トフィソパム	白人の健康な男性16人においてCYP3A4活性に対するトフィソパムの影響をアルプラゾラム併用下で試験したところ、アルプラゾラムのAUC、t1/2が有意に上昇した。
376	インドメタシン	母体へのインドメタシン投与により、早期新生児死亡のリスクが高まることが示唆された。
377	ワルファリンカリウム	ワルファリンカリウムの長期服用患者では骨粗鬆症リスクが高いことが示唆された。
378	プラバスタチンナトリウム	スタチン系薬剤の使用によって、リンパ球性悪性腫瘍のリスクを高めることが示唆された。
379	インドメタシン	インドメタシンの母体投与は、早期新生児肺血症の発症リスクを高めることが示唆された。
380	塩酸ラニチジン	乳幼児において、胃食道逆流性疾患の治療に胃酸分泌抑制剤を使用すると、急性胃腸炎や市中肺炎の感染リスクが高まることが示唆された。
381	塩酸ラニチジン	超低出生体重の乳児において、H2ブロッカーの投与は壊死性腸炎の発生率を高める。
382	ジクロフェナクナトリウム	選択的COX-II阻害剤と同じく、NSAIDも心筋梗塞の発症リスクを高めることが示唆された。
383	ジクロフェナクナトリウム	ジクロフェナクは他のNSAIDsと比べ、胃粘膜障害、潰瘍発生率が高く、NSAIDs長期使用患者かつH.pylory感染例では潰瘍の発生率を高めることが示唆された。
384	イソニアジド	ウサギを用いた試験の結果、にんにく粗抽出物を14日間経口投与後にイソニアジドを投与すると、イソニアジドのCmaxやAUCが有意に低下することが示唆された。
385	マレイン酸フルボキサミン	冠動脈バイパス術後のうつが危険因子とされることから、術前にSSRIを服用した患者の予後を調査したところ、術後の長期予後における死亡、再入院のリスクが高まった。
386	マレイン酸フルボキサミン	冠動脈バイパス術後のうつが危険因子とされることから、術前にSSRIを服用した患者の予後を調査したところ、術後の長期予後における死亡、再入院のリスクが高まった。
387	リドカイン	血液透析患者のうち、リドカインテープ剤を長時間使用した患者で皮膚障害の発生頻度が高まった。
388	シスプラチン	17歳以下の小児がん患者1511人を対象とした3年以上の追跡調査で2次がんの発生が認められた26人について、薬剤の使用状況等をレトロスペクティブに調査した結果が報告された。
389	ゾピクロン	慢性不眠症患者に対してゾピクロンを投与したところ、プラセボと比較して有効性が見られなかった。
390	アセトアミノフェン	アセトアミノフェンの過量投与が原因である急性肝不全患者50例中、26例が死亡、あるいは肝臓移植を受けていた。
391	塩酸パロキセチン水和物	冠動脈バイパス術後のうつが危険因子とされることから、術前にSSRIを服用した患者の予後を調査したところ、術後の長期予後における死亡、再入院のリスクが高まった。
392	塩酸パロキセチン水和物	SSRIを投与された妊婦において、新生児が呼吸窮迫、低体重となる頻度の高いことが示唆された。

	一般名	概要
393	塩酸パロキセチン水和物	抗うつ剤を使用中の重症うつ病患者のうち、6～18歳で自殺既遂のリスクが増加した。
394	イトラコナゾール	イトラコナゾールの事前投与後にクロピドグレル投与した際の血小板凝集抑制作用はCYP3A5 遺伝子多型により変化することが示唆された。
395	イブプロフェン	選択的COX-II 阻害剤と同じく、NSAIDも心筋梗塞の発症リスクを高めることが示唆された。
396	ウロキナーゼ	急性虚血性脳卒中患者に対するウロキナーゼ動脈投与において、脳内出血のリスクが増大することが示唆された。
397	イトラコナゾール	健常人を対象とした無作為化クロスオーバー試験において、イトラコナゾール、gemfibrozil及びこれらの併用により血漿中ロペラミド濃度が有意に上昇することが示唆された。
398	ジクロフェナクナトリウム	ジクロフェナクの投与により、急性心筋梗塞の発症リスクが高まることが示唆された。
399	シロドシン	ウサギにおいて、 $\alpha$ 1アドレナリン遮断薬の作用により、IFIS関連の瞳孔に対して収縮作用が強くなった。
400	乾燥濃縮人血液凝固第8因子	海外での訴訟に関する報告(当該製品は国内で流通していない)。
401	乾燥濃縮人血液凝固第8因子	血漿由来凝固因子製剤にヒトパルボウイルスB19 遺伝型2が検出され、NAT (nucleic acid amplification testing) による同時検出が可能であることが報告された。
402	コウジ酸	コウジ酸がマウス肝で腫瘍イニシエーション活性を有していない可能性が示唆された。
403	グルコン酸クロルヘキシジン含有薬用歯磨き類	本剤によると思われる呼吸苦、動悸、全身の倦怠感等ショックをきたした1例が報告された。
404	染毛剤	本剤によると思われるアナフィラキシー性ショック、急性循環不全、心筋梗塞後症候群をきたした1例が報告された。
405	ビタミンB群含有製品	本剤によると思われる嘔吐をきたした1例が報告された。